

中丸子南緑道緑を守る会 の活動紹介



発表者 若山 信雄
中丸子緑道緑を守る会 会計
(中丸子南町町内会 防犯部長)

続きまして、「中丸子南緑道緑を守る会」の活動紹介について、これから発表させていただきます。

私は、「中丸子南緑道緑を守る会」で会計を、また「中丸子南町町内会」の防犯部長をしています若山と申します。
よろしくお願ひします。

中丸子南緑道の紹介



始めに「中丸子南緑道」をご紹介します。

「中丸子南緑道」は、JR南武線の平間駅から徒歩7分ほどの所に位置し、多摩川に近く、周辺にはガス橋があり、玉川小学校に隣接している公園です。

中丸子南緑道緑を守る会の紹介

- ・ニヶ領用水の分流だった渋川（シブッカ）を暗渠にして「中丸子南緑道」が整備された。（1974年）
- ・整備後は、特に管理者もなく草が生い茂り、不法投棄などもあってゴミ捨て場のような状態だった。
- ・初代会長の高橋昌良さんが、緑道の瓦礫を撤去し、草刈りをするなど、数人で地道な花壇づくりを始めたことが活動のきっかけ。
- ・2001年に「中丸子南緑道緑を守る会」が発足。現在は、町会役員などの地元有志19名が会員として活動。会員の年齢層は30～80歳で幅広い。



1974年（昭和49年）にニヶ領用水の分流だった渋川（シブッカ）を直径1.5mの下水管を通して整備された緑道です。

整備後は、管理者が無く、うっそうと草木が生い茂り、不法投棄などもあってゴミ捨て場のような状態になってしまい、当時は「ここは怖いところだから通るな」と言われていた場所でした。そこで、改めて川崎市に、整地をお願いし、1992年（平成4年）にそれが完成しました。

それから3年後、地元に住んでいた初代会長の「高橋昌良さん」という方が、整地されたと言っても石ころだらけの荒地に、何とかして花を咲かせたいという思いで活動を始めました。最初は、瓦礫を撤去し、草刈りをするなどの活動から始め、それに賛同した数人の方々も加わり、地道な花壇づくりを始めたことが会発足のきっかけでした。

2001年（平成13年）に「中丸子南緑道緑を守る会」が発足しました。

現在は、竹田会長をはじめ町会関係者などの地元有志19名が会員として活動しています。

会員の年齢層は30代から80代と幅広く、最近では30代のベトナム人の男性も仲間に加わりました。

中丸子南緑道緑を守る会の活動内容

○活動日時

- ・毎月第2日曜日 9:00～（10名程）
- ・毎週火曜日、金曜日 8:30～10:30（5名程）

○活動費

緑地協会からの支援金や市助成金が主な活動費

○活動内容

清掃作業、雑草取り
堆肥作り（落ち葉を堆肥にして活用）
花の手入れ（忘れな草、菜の花、紫陽花、コキア、
パンジーなど）



「緑を守る会」の活動内容ですが、定例的な活動として、毎月第2日曜日、毎週火曜日と金曜日の午前中に活動しています。

活動費用は、川崎市公園緑地協会からの支援金と、川崎市の助成金が主な活動費です。

清掃作業や雑草取り、花の手入れを行っており、落ち葉を堆肥にして活用することも行っています。

特に花の手入れについては、緑道を訪れた方に季節を感じていただけるよう、季節の花々を植えるようにしています。

地域との連携

○小学校や保育園との連携

- ・緑道のお隣の玉川小学校の課外授業で、会員が緑道の歴史を説明。緑道でパンジーを植える体験や堆肥作りの説明も行う。
- ・児童がお手伝いとして、落ち葉拾いやゴミ・雑草取りの手伝いも行う。



○地元町会との連携

- ・コロナ禍以前は、子ども会野球部中心に「夏休みを楽しむ会」を開催。そうめん流し、すいか割り、かき氷、ポテト、唐揚げなどの提供。
- ・お茶会を開催し、町会長や役員を案内。
- ・トルコ地震被害やウクライナ侵攻への募金活動も行い、各大使館へ直接寄付。



「緑を守る会」では、地域との連携も積極的に行っています。

緑道の隣には玉川小学校があり、課外授業において学校の生徒に会員が緑道の歴史を説明しています。

パンジーを植える体験や堆肥作りの説明も行っています。

また、「お手伝いすることはありますか？」と私達の落ち葉やゴミ拾い、雑草取りを手伝ってもらったこともあります。

今年の2月、学校で生徒たちが緑道での活動発表を行うとのことで、「見に来てほしい」と会員7名が招待されました。

一人一人が簡潔に内容をまとめて、人前できちんと発表する素晴らしさに、私たちは皆感動してしまいました。

近隣の保育園児たちも一緒に花植えを行ったことがあります。

ミミズを見せたり、土に触れる機会が少ない今の子どもたちにとって、良い経験になっていると思います。

その他にも地元町会と協力して「夏休みを楽しむ会」を開催し、地域の子どもの向けにそうめん流しやすいか割りなどを行ったりしていましたが、現在コロナの影響により中止しています。

また、町会長や役員を案内し、昨年より「お茶会」を開催しています。

「お茶会」では、トルコ地震被害やウクライナ侵攻への募金活動も行い、集まった募金を各大使館に直接届ける活動も行いました。

活動への表彰

- （公財）川崎市公園緑地協会
『わがまち花と緑のコンクール』団体部門
大賞受賞【第3回と第13回（2017年）の2度受賞】



- 第27回（2017年）『全国花のまちづくりコンクール』
奨励賞受賞
※団体部門1,634点の応募の中から上位18点内の奨励賞

「緑を守る会」では、これまでに賞をいただくことが出来ました。

川崎市公園緑地協会主催の「わがまち花と緑のコンクール」では、団体部門において、第3回と第13回に2度大賞を受賞いたしました。

また、2度目の大賞受賞と同じ年には、「全国花のまちづくりコンクール」で奨励賞を受賞いたしました。この奨励賞は、全国から集まった団体部門1,634点の応募の中から上位18点内に選ばれた賞になります。これまでの地道な活動が実を結んだ結果と、会員全員で受賞を喜びました。

最後に・・・

○地域の方々から

- ・お年寄りから「いつもきれいで楽しみにしています。」
とのお声かけをいただく。

○工夫していること

- ・誰もが知っている花、季節を感じられる花を植える。
⇒緑道に親しんでいただく。
- ・緑道の中央に背の低い草花を植える。
⇒緑道全体の見通しを良くする。

緑道を「市民のオアシス」、「安全・安心な場所」に。

○緑道のモットーは・・・

『いつ来ても必ず何らかの花が咲いている。』



最後になりますが、日常で活動していると散歩しているお年寄りから「いつもきれいで楽しみにしています。」と声を掛けていただくことがあります。

直接声を掛けていただくので、私達の活動を楽しみにしていただけていると実感することができ、活動の励みになっています。

私達の活動で工夫している点については、誰もが知っている花や季節を感じられる花を植えることで、地域の方々が緑道に親しんでいただけるよう、また背の低い草花を植えることで、緑道全体の見通しが良くなるようにしています、

緑道は、「市民のオアシス」、「安全・安心な場所」でなければなりません。

整備直後には管理されていない怖い場所だった緑道が、地元有志の諸先輩が続けてきた地道な活動により、現在は緑道が貴重な「市民の憩いの場」となっていることを日々感じることができます。

私達の活動のモットーは、「いつ来ても必ず何らかの花が咲いている。」です。

今後もこの中丸子南緑道を地域の手で守り続けていきたいと思っております。

ご清聴
ありがとうございました。



以上で「中丸子南緑道緑を守る会の活動紹介」を終わります。
ご清聴ありがとうございました。